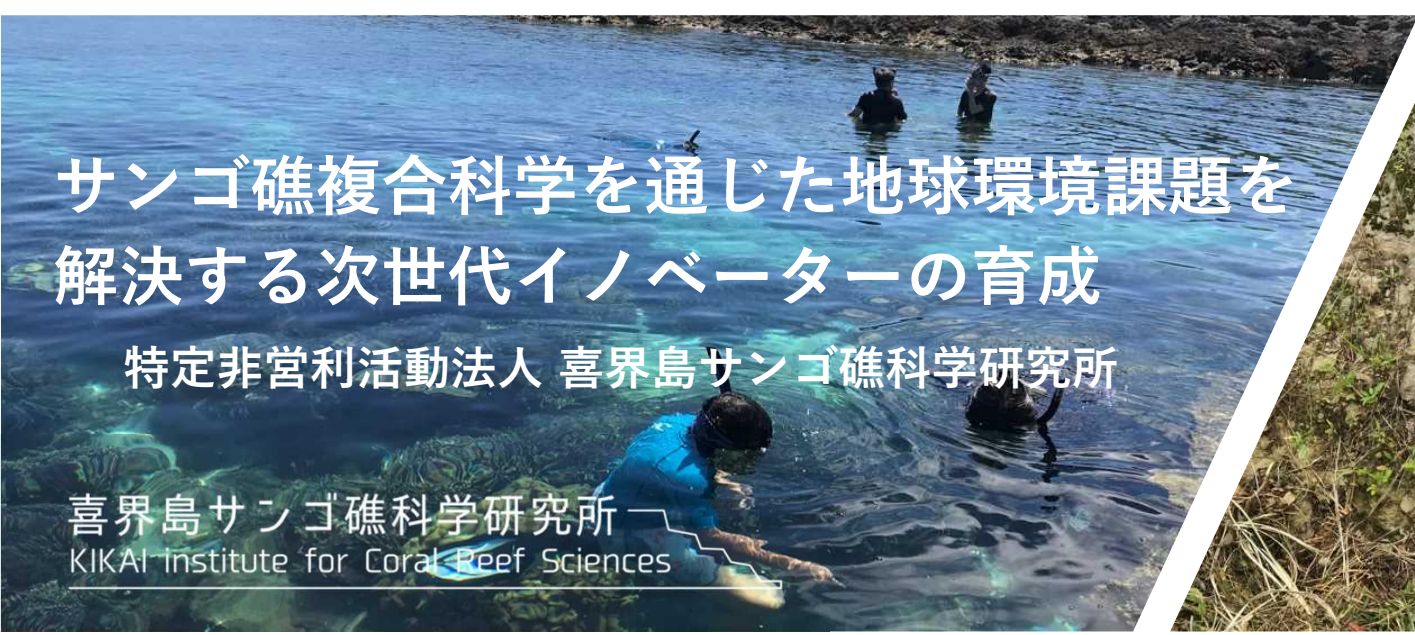




KIKAI
カレッジ
College



令和6年度 活動状況調査



サンゴ礁複合科学を通じた地球環境課題を
解決する次世代イノベーターの育成

特定非営利活動法人 喜界島サンゴ礁科学研究所

喜界島サンゴ礁科学研究所
KIKAI Institute for Coral Reef Sciences



目次

1. プログラム概要（募集選抜の人数・評価結果を含む概況）
2. 令和6年度に選抜した受講生の選抜から現在までの伸長の状況
3. 上記受講生の評価の概要（選抜・評価方法および基準を含む）
4. 受講生の伸長（コンテスト等の実績を含む）
5. 受講生の伸長とメンター活動を含む指導との関わりの分析
6. 受講生への評価のフィードバックを含めた個々の学びのPDCAについて
7. 第二段階の指導の工夫と評価計画の概要
8. 今後の重点課題

サンゴ礁という学びの場



多様な研究者が集まり、地球環境課題に分野横断的な
視点からアプローチすることができる

喜界島の豊かな自然を活用し、**サンゴ礁複合科学**を通して、
広い視野をもって課題を発見し、**感性とコミュニケーション力**を駆使して
新学術領域を展開し、**課題解決に導く**研究者となる
次世代のイノベーターとなる人材を育成する

プログラムの概要

～サンゴ礁複合科学を通じた地球環境課題を解決する次世代イノベーターの育成～

地球環境課題をグローバルに牽引する科学者

KIKAI college: 答えのない問いに向き合う力を育て 次世代リーダーを目指す

対象：高校生～社会人

メンターの指導のもと、実際に研究活動を行いながら、研究成果を論文にまとめ、国際的な舞台で発表することを目指す

サンゴ礁複合科学を通じた 未来を切り開く次世代イノベーター

二次選抜PG: 発見した課題を、分野に囚われず解決する力を持つ人物の育成

対象：小学6年生～中学3年生 約10名

個別の研究指導を行い課題解決能力を養うとともに、地域や研究機関との連携を通して「課題に分野に囚われずアプローチする力」を育てる

ステップアップテスト・プログラム受講の様子・レポートの内容

一次選抜PG: 幅広い視野を育み、分野横断して課題を発見できる人物の育成

対象：小学5年生～中学3年生 約40名

サンゴ礁に関連する様々な分野の講義と、喜界島でのフィールドワークを通して「幅広い視野と課題発見能力」を育てる

全国の連携機関および地域と協働した 一般応募または推薦募集
これまでの研究所プログラム受講の様子・応募願書のレポートの内容

5年間で達成する目標

受講した児童・生徒がプログラムを修了後も継続して研究活動を行える体制を構築

本企画で学んだことを活かして科学者を目指す児童・生徒を8名輩出する

一次選抜PGから二次選抜PGまでを修了する児童・生徒を24名輩出する

連携する大学・研究機関の研究者と共同で継続していける体制を構築する

本企画によりプログラムの周知と関心を広く集める

■プログラム概要

➤ 受講生の募集・選抜

受講生の募集・一次選抜方法

受講生の募集

令和6年度

3月21日～8月31日

キャンプ

5月10日（受講生）

5月17日（新規）

～6月30日



喜界島サンゴ礁科学研究所 KIKAI College

サンゴ塾

サンゴ礁には世界の不思議がつまっている

サンゴ塾は第一線の研究者と本物のフィールドを巡りながら、科学的な探求方法のプロセスを身につけ、地球環境の問題解決に取り組む実践型のスクールです。

対象：小学5-6年生・中学生・高校生

KIKAI College

サンゴ塾はJSTジュニアドクター育成塾に採択され、実施しています



喜界島サンゴ礁科学研究所 KIKAI College

サンゴ塾

2024-2025 スケジュール

サンゴ塾とは？

サンゴ塾は喜界島サンゴ礁科学研究所に付属する教育プログラム KIKAI College の中で、小学生～高校生を対象としたプログラムです。世界的にも希少なサンゴ礁の島、喜界島を拠点に、国内外のサンゴ礁研究者との連携を活用したレクチャーや実習を行い、次世代の地球環境リーダーの育成に取り組んでいます。本物の自然の中で、第一線で活躍する研究者と共に研究を行い、自然の多様性や科学と社会のつながりを学び、感性とコミュニケーション能力を育成します。令和3年度から小学生・中学生のコースは国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）のジュニアドクター育成塾に採択されています。

対象：小学5-6年生・中学生

受講料：1年間 全10回 35,000円（税抜）
※奄美群島の学校に通う方は受講料免除になります。

授業の参加方法

- 全クラス 世界中どこからでも、オンラインで受講可能！
zoom、Google classroom を利用できるパソコンを用意ください。
- 全国の大学・研究機関で出張授業も開催！
- 夏休みと冬休みには研究者と一緒にフィールドワークをしよう！
（サンゴ塾生優先参加。別途、お申し込みが必要となります。）

申し込み方法

■応募書類による選抜を実施
募集締切：2024年3月31日(日)

- ①応募動機
- ②レポート

（テーマ：ご自身が不思議に思ったことをテーマに、調べてわかったことや、わからなかったことをまとめます）

申し込み、サンゴ塾ホームページはこちら！



『サンゴ礁レクチャー』 地球環境やサンゴ礁をテーマにした研究者による授業（全7回）

4月20日(土) 15:00-16:30	5月18日(土) 15:00-16:30	6月15日(土) 15:00-16:30
喜界島にてサンゴ塾開講式も開催！		
7月20日(土) 15:00-16:30	サンゴ礁サイエンスキャンプ 8月 実施予定 国内外から集まる研究者と喜界島で研究をしよう！ ※サンゴ塾生優先参加。受講料に参加費は含まれません	9月21日(土) 15:00-16:30
10月19日(土) 15:00-16:30		12月21日(土) 15:00-16:30

『研究ワークショップ』 レクチャーで見つけた不思議を研究につなげよう！（全3回）

1月18日(土) 15:00-16:30	2月15日(土) 15:00-16:30	3月15日(土) 15:00-16:30
不思議を発見してみよう！ これまで受講したレクチャーから、どんなことを不思議に思ったか一緒に考えてみよう。	不思議を確かめる方法を考えよう！ レクチャーで見つけた不思議を解決するにはどんな事を調べたら良いでしょうか？研究計画を一緒に立ててみます。	最終発表会！ 自分の考えたことをみんなに伝えてみよう。研究者の先生たちもみんなのアイデアを聴きに来ます。

2024年度のサンゴ塾の不思議を授業する博士たち

サンゴロジ ～超くて強いサンゴから学ぶ～ 渡邊 剛（地球研）	サンゴ大群落の創出と維持 機構の推定 磯村 尚子（沖縄工専）	サンゴ礁の島の気候と海洋環境の変動 山崎 敦子（名古屋大学）
サンゴ礁の不思議な生き物（仮） 藤井 琢磨（日本大学）	サンゴの白化現象 樋口 富彦（東京大学）	

KIKAI College 問い合わせ先：喜界島サンゴ礁科学研究所
電話：0997-66-0200
Mail：college@kikaireefs.org



サンゴ塾

■プログラム概要

➤ 受講生の募集・選抜

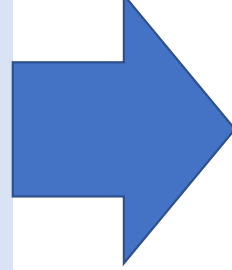
応募動機・選抜レポート →自由形式で記述→メンターが評価

5名のメンター

(山崎、駒越、田中、樋口、脇谷) が

- ・興味関心の高さ
- ・表現力
- ・独創性
- ・科学的思考能力
- ・論理的思考能力

受講生を選抜



どのような児童・生徒が応募してきたか

- ・科学的関心が非常に高く
- ・サイエンスキャンプに参加したことがあり、フィールドワークを体験している場合もある
- ・すでに自身で研究を始めている人



本物のフィールドと研究を求めやってくる受講生

- ・サンゴの白化現象について
- ・ペットボトルの飛び出しについての考察
- ・海のない長野県と海とのつながり
- ・深海にサンゴはいるのか？
- ・嘉弥真島の地理と地形
- ・南半球にはなぜ陸地が少ないのか

など

を各5段階で評価、レポートのコメントも作成

* 奄美選抜は加えて、学校推薦文を提出

→合計20点以上で合格

コメントとまとめ、選抜者へ返却



自由形式
レポートの例→

■令和6年度に選抜した受講生の選抜から現在までの伸長の状況
➤ 第一段階プログラム

第一段階
プログラム

サンゴ礁をフィールドとする大学等研究者
「**専門家**」と学ぶ科学教育プログラム



レクチャー

「地球環境課題」をテーマにした
専門家による講義



サンゴ礁サイエンスキャンプ

全国から集まる研究者と喜界島で行う夏
休みの科学調査体験



研究ワークショップ

レクチャーやキャンプから学んだ不思議
を研究につなげるオンライン講座



フィールドワーク

サンゴ礁によって作られた自然や文
化を学ぶ春休みの巡検ツアー



令和6年度
(2024)
第一段階
『レクチャー』

4月	「研究者な自分」のすすめ	駒越太郎先生（喜界島サンゴ礁科学研究所）
5月	サンゴロジー～弱くて強いサンゴから学ぶこれからのヒトと自然の関係性～	渡邊剛先生（総合地球環境研究所/北海道大学）
6月	深場サンゴ礁を探る	Frederic Sinniger先生（熱帯生物圏研究センター/琉球大学）
7月	サンゴの白化現象	樋口富彦 先生（東京大学）
8月	サンゴ礁サイエンスキャンプ	
9月	繁殖からみるサンゴの多様性	磯村尚子先生（沖縄工業高等専門学校）
10月	日本のサンゴ礁研究の歴史と「研究の記録」	佐藤崇範 先生（能登里海教育研究所、琉球大学）
11月	日本サンゴ礁学会	
12月	環境の多様性と種の多様性の関係性 - 奄美の内湾性サンゴ群衆と多様な動物たちを例に-	藤井琢磨 先生（日本大学）
1月	これまでのレクチャーの不思議をまとめよう！	
2月	レクチャーの不思議を確かめる方法を考えよう！	
3月	最終成果発表会	

サンゴ礁サイエンスキャンプ in 喜界島



2022年度（第一段階）

- ・お魚班（田中健太郎：東大大海研）
- ・Ecology班（Samuel Kang：ハワイ大）
- ・環境班（樋口富彦：東大大海研）
- ・貝殻班（浅沼尚：東大大海研）
- ・うみぼうず班（駒越太郎:喜サ科研）

2022年度（第二段階）

- ・佐野有司（高知大）
- ・後藤 明（南山大）
- ・松田 博貴（熊大）
- ・Samuel Kang（ハワイ大）
- ・樋口富彦（東大大海研）
- ・石川 仁（冒険家）
- ・鈴木 克彰（カヤック）
- ・上村 真央(パドルボート)

2023年度（第一段階）

- ・Ecology班（Samuel Kang：ハワイ大）
- ・ヒラムシ班（露木葵唯：北大）
- ・堆積物班（佐野 亘：岡山大）
- ・シャコガイ班（駒越太郎:喜サ科研）

2023年度（第二段階）

- ・渡邊 剛（地球研/北大）
- ・山崎 敦子（名古屋大）
- ・松田 博貴（熊大）
- ・鈴木 倫太郎（喜サ科研）
- ・安西 耕（喜サ科研）
- ・南波 圭（劇団青年団）

2024年度（第一段階）

- ・Ecology班（Samuel Kang：琉大、水山克：名桜大）
- ・こもの班（露木葵唯：琉大、北乃坊誠也：鹿大）
- ・化石班（Evan James Gowan：熊大、佐野 亘：岡山大）
- ・うみぼうず班（山崎敦子:名大）
- ・環境班（樋口富彦：東大大海研）

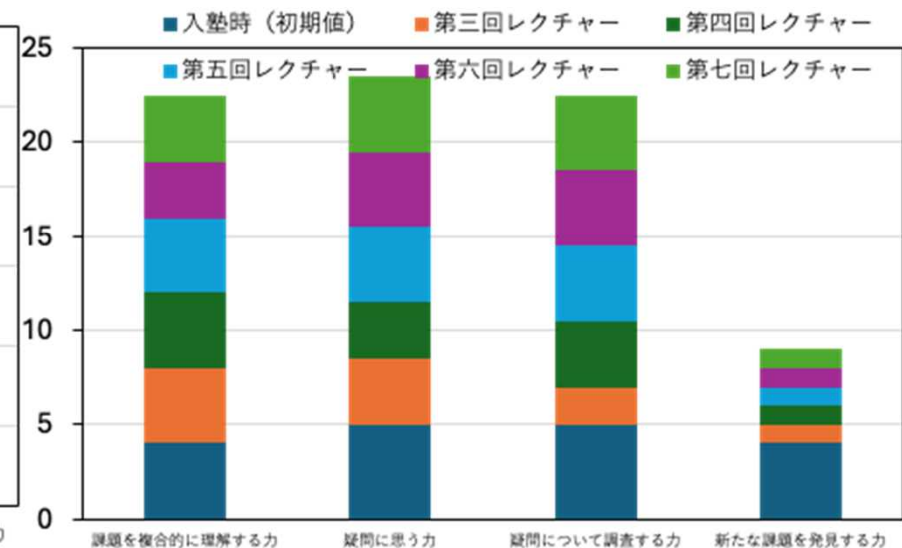
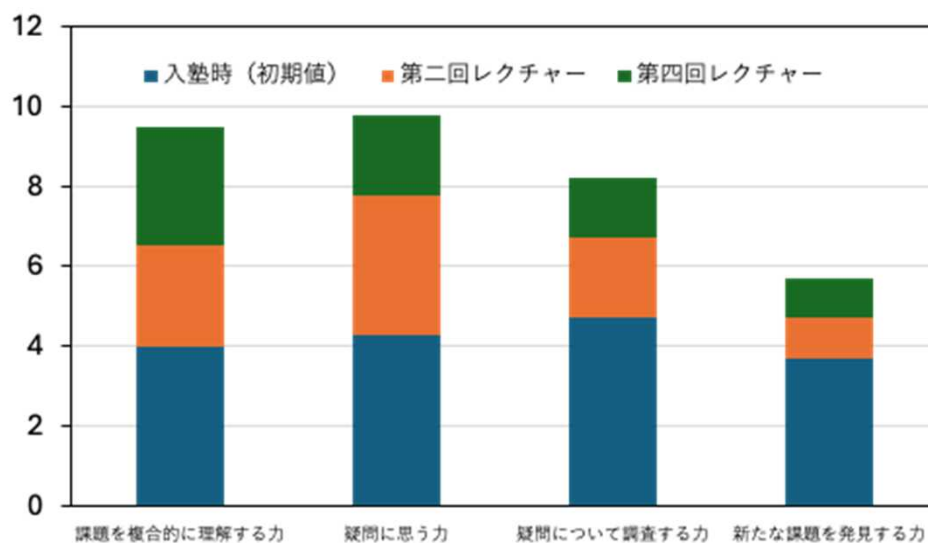
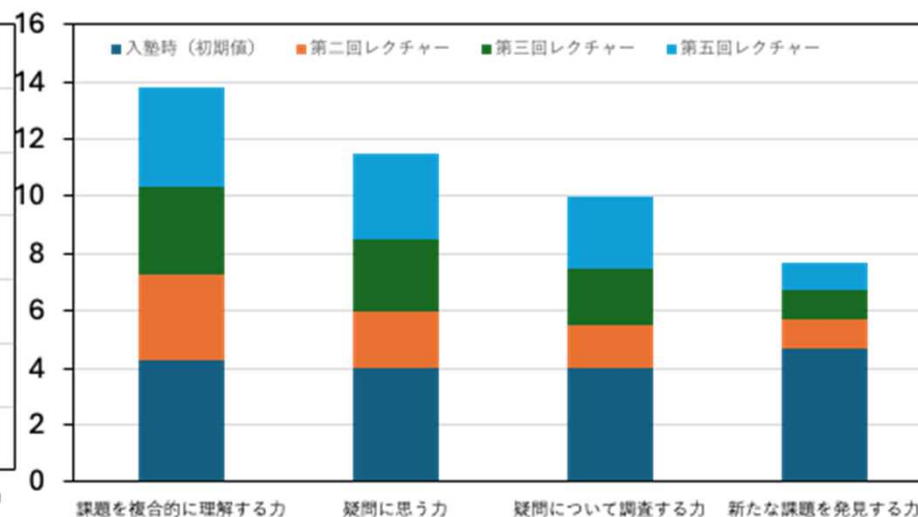
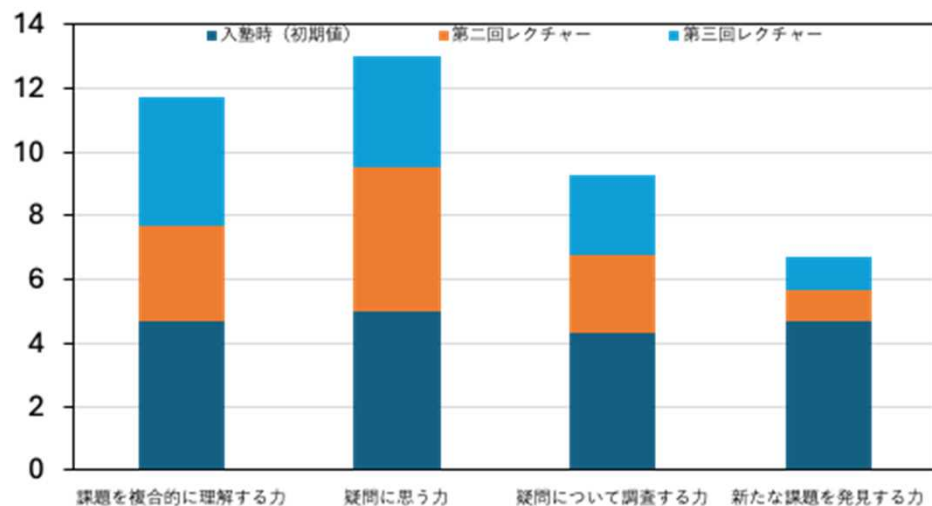
2024年度（第二段階）

- ・渡邊 剛（地球研/北大）
- ・山崎 敦子（名古屋大）
- ・松田 博貴（熊大）
- ・Samuel Kang（琉大）
- ・佐々木圭一（金沢学院大）
- ・駒越太郎（喜サ科研）

サンゴ礁をフィールドとする多数の「専門家」が直接指導

■令和5年度に選抜した受講生の選抜から現在までの伸長の状況

➤ 第一段階プログラム



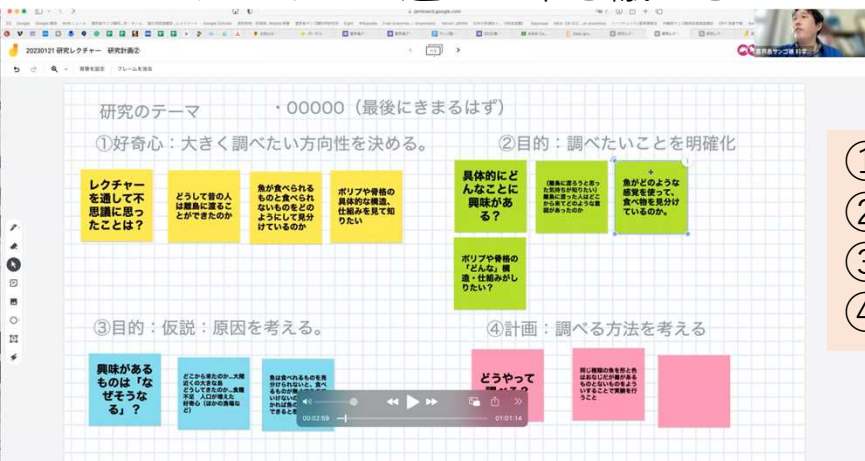
■今後の予定

➤ 第一段階プログラム

1月18日（土）15:00~16:30 ワークショップ①, 2月15日（土）ワークショップ②

喜界島サンゴ礁科学研究所 駒越太郎

・レクチャーを通して不思議に思ったことをもとに研究を考えるワークショップを実施



段階を分けて、レクチャーを通して 受講生の例 (考古学レクチャーから) 不思議に思ったことをまとめる

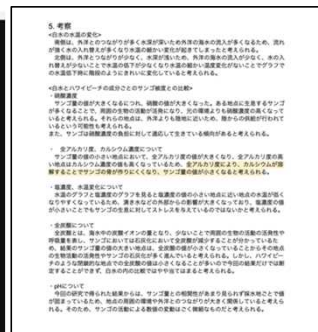
- ①好奇心: 調べたい方向性を決める
- ②目的: 調べたいことを明確にする
- ③仮説: なぜそうなるか考える
- ④計画: 調べる方法を考える

- ①人はどうして離島に渡ったのか
- ②どんな人が島を渡ったのか?
お墓は経済的に豊かな人しか
持っていないので注目できそう
- ③食料の不足から渡った?
技術の発展のため島を渡った?
- ④1. 人々がどのように移動したか
(DNA・文化)をしらべる
2. 移動した土地の特徴の共通点
を調べる
3. 船の共通点を調べる

3月15日 15:00~16:30

サンゴ塾成果発表会 (第一段階・第二段階) + 保護者

・第一段階受講生の研究ワークショップのまとめと第二段階受講生の研究レポートの発表を行なった



例) テーマ

「人の住む環境の水からサンゴの住む水への変化」についてのコメント

コメント質問

家の水が通る川のほうが
硝酸多そうだけど
違うのはなんでだろう?

硝酸濃度は
天気や潮位で
変化しそう

陸の
生物の
影響は?

受講生 回答

陸に隣接する水で
土壌と水の栄養塩を
測れば陸の影響が
分かるかもしれない

⇒第一段階からの第二段階に進むことで

できるようになることを受講生・保護者に伝える狙い 新たな課題の発見

■令和6年度に選抜した受講生の選抜から現在までの伸長の状況
➤ 第二段階プログラム

第二段階
プログラム

『発見した課題を、分野に囚われず解決する
力を持つ人物の育成』



毎週の研究相談

メンター・メンター補による、
研究計画の策定、解析方法の指導
発表資料の作成等を指導



レクチャー

レクチャーやキャンプから学んだ不
思議を研究につなげるオンライン講座



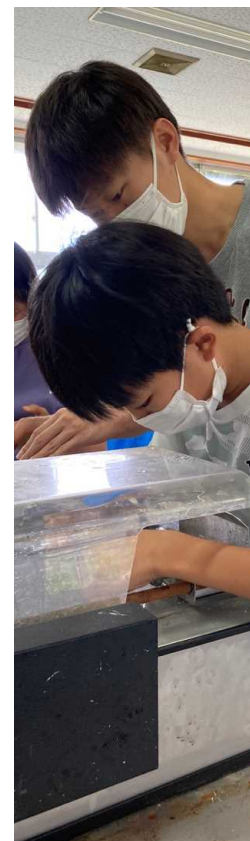
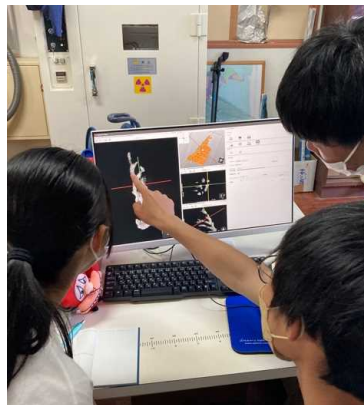
研究実習

喜界島でのフィールドワーク、近く
のメンター研究室での研究実習を
各受講生 研究テーマを設定し実施



サンゴ礁サイエンスキャンプ

全国から集まる研究者と喜界島で行う夏
休みの科学調査（アドバンスドコース）



■令和5年度に選抜した受講生の選抜から現在までの伸長の状況
 ➤ 第二段階プログラム

月	実施内容（毎週土曜日15：00～16：30）
4月	メンターから研究テーマの説明
5月	メンターとの面談、研究計画を立てる
6月	情報の調べ方を学ぶ。研究計画の作成のための調べ学習
7月	メンターとの議論で出てきた疑問を整理する。 研究テーマについてメンターからフィードバック ・メンター会議
8月	サンゴ礁サイエンスキャンプ（フィールドワークと実験）
9月	追加実験・調査、研究結果のまとめと解析
10月	学会発表に向けた準備（ポスター制作）
11月	学会発表
12月	学会発表の振り返りと新たな課題の発見 ・メンター会議
1月	学会発表でのフィードバックをもとに研究レポートの作成
2月	研究レポートの作成と追加の解析
3月	育成プログラム内での研究発表会 新たな課題に対する研究計画や追加実験 ・メンター会議

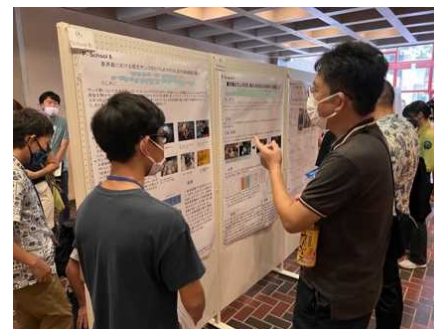
第一週目	メンターとの面談・課題提示
第二週目	課題に取り組む
第三週目	レクチャー
第四週目	課題の振り返り 次月への準備



メンターとの研究相談



喜界島に来島しての
フィールド研究の実施



学会参加（成果発表）



連携研究室での実験（九州大学等）

研究レポート作成
新たな課題の発見

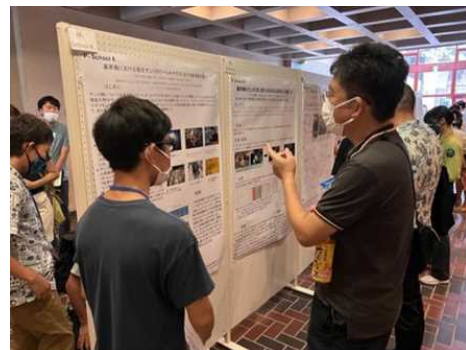


■受講生の伸長（コンテスト等の実績を含む）

➤ 第二段階プログラム

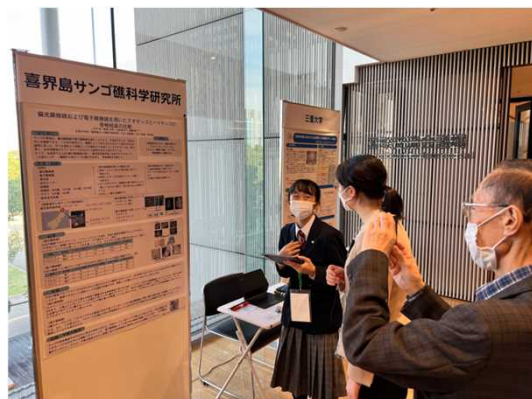
成果発表

日本サンゴ礁学会第25回大会



サイエンスカンファレンス2024

第二段階受講生1名参加

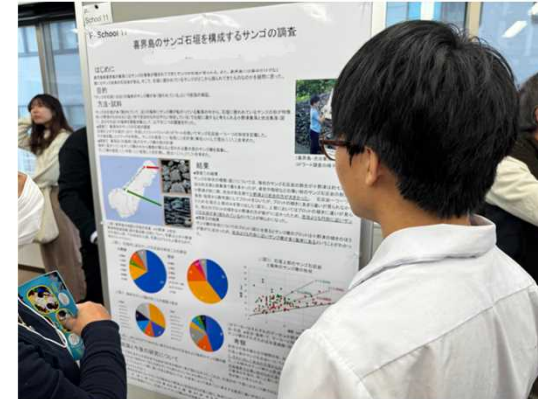
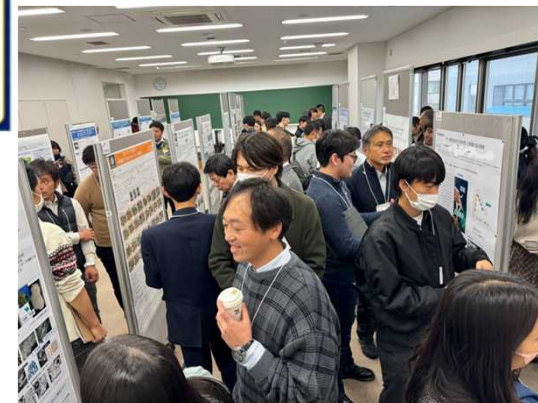


日本サンゴ礁学会

第27回大会

第二段階受講生3名参加

学会では研究者による
評価・参加証明を実施



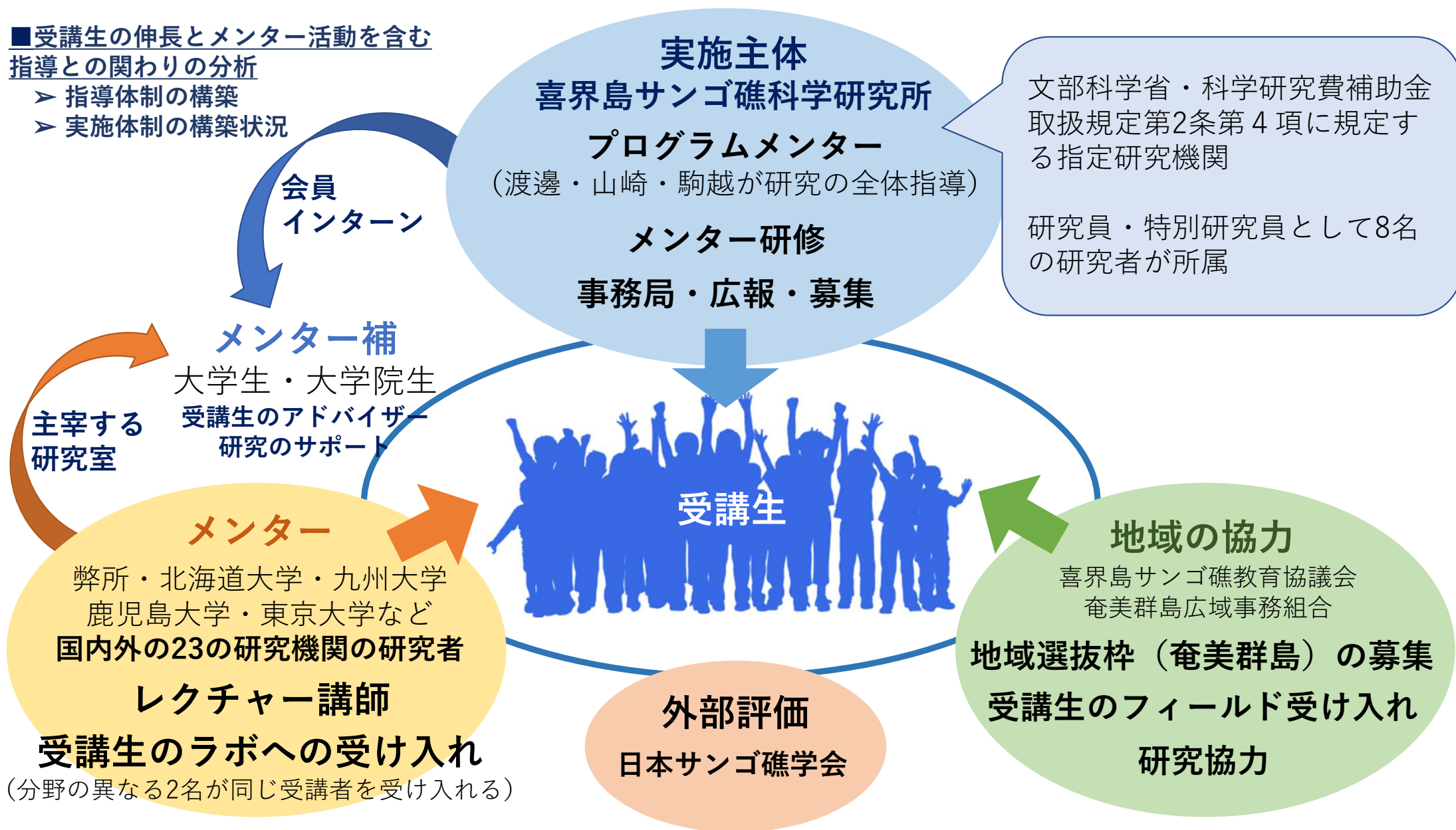
■受講生の伸長（コンテスト等の実績を含む）

➤ 第二段階プログラム 令和6年度（2024）

- Q-1 U-18が未来を変える研究発表SHOWに応募
- 日本海洋教育学会参加
- 日本地球惑星科学連合2024年大会参加
- 研究コース受講生3名 日本サンゴ礁学会
小中高生によるサンゴ礁研究ポスターセッションにてポスター発表
：学会員の研究者・会場参加者による評価とフィードバック
- サイエンスカンファレンス2024にて研究発表優秀賞

■受講生の伸長とメンター活動を含む
指導との関わりの分析

- 指導体制の構築
- 実施体制の構築状況



■受講生の伸長とメンター活動を含む指導との関わりの分析

➤ 指導体制の構築

第一段階育成プログラム：「サンゴ塾 レクチャーコース」

実施時間：毎月第3土曜日 15:00~16:30

メンター補：学部学生（2名）・大学院生（2名）

フィールドワーク：「サンゴ礁サイエンスキャンプ」

実施時間：2023年8月2~6日, 8月20~26日

メンター補：学部学生（7名）・大学院生（2名）



渡邊 剛（地球研）



サンゴ礁地質学
山崎 敦子
（名古屋大学）



サンゴ礁古環境学
駒越 太郎
（喜界島サンゴ礁科学研究所）



地質学
松田 博貴
（熊本大学）



生物科学
露木 葵唯
（琉球大学）



海洋生態学
Samuel Kahng
（北海道大学
、ハワイ大学）



地質学
佐々木 圭一
（金沢学院大学）



沿岸地質学
佐野 亘
（岡山大学）

■第二段階の指導の工夫と評価計画の概要

➤ 指導方法・評価手法の開発

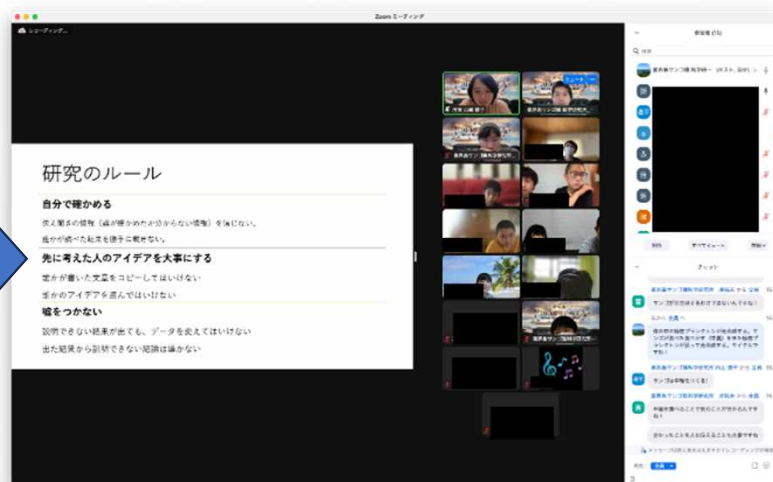
メンター会議・研修・研究倫理ガイダンス

本企画のメンターは大学等の研究機関の研究者である。研究所会員の研究者と連携し、メンターの指導要領の規格化、育成プログラムの実働を担う。以下の研修を行う。

- ①プログラム趣旨と企画計画の説明 メンター間のテーマの相談と共有・1月に1回の頻度で第二段階へ指導
- ②育てたい能力に応じた指導方法（ワークシートの共有）と受講生の評価基準の説明
- ③研究倫理教育の実施の確認
- ④事務局の運営体制（各担当者）と連携方法の説明（メッセージコミュニケーションツール活用）
- ⑤各所属機関に応じて連携に必要な手続きの確認
- ⑥実験・野外活動の安全管理（消防署上級救命講習等、所属機関で受講している場合免除）
- ⑦喜界町の小中学校で連携授業を行い、児童・生徒への教授法を訓練する



メンター会議・メンター補研修



第一・第二段階の受講生へガイダンス・研究倫理指導



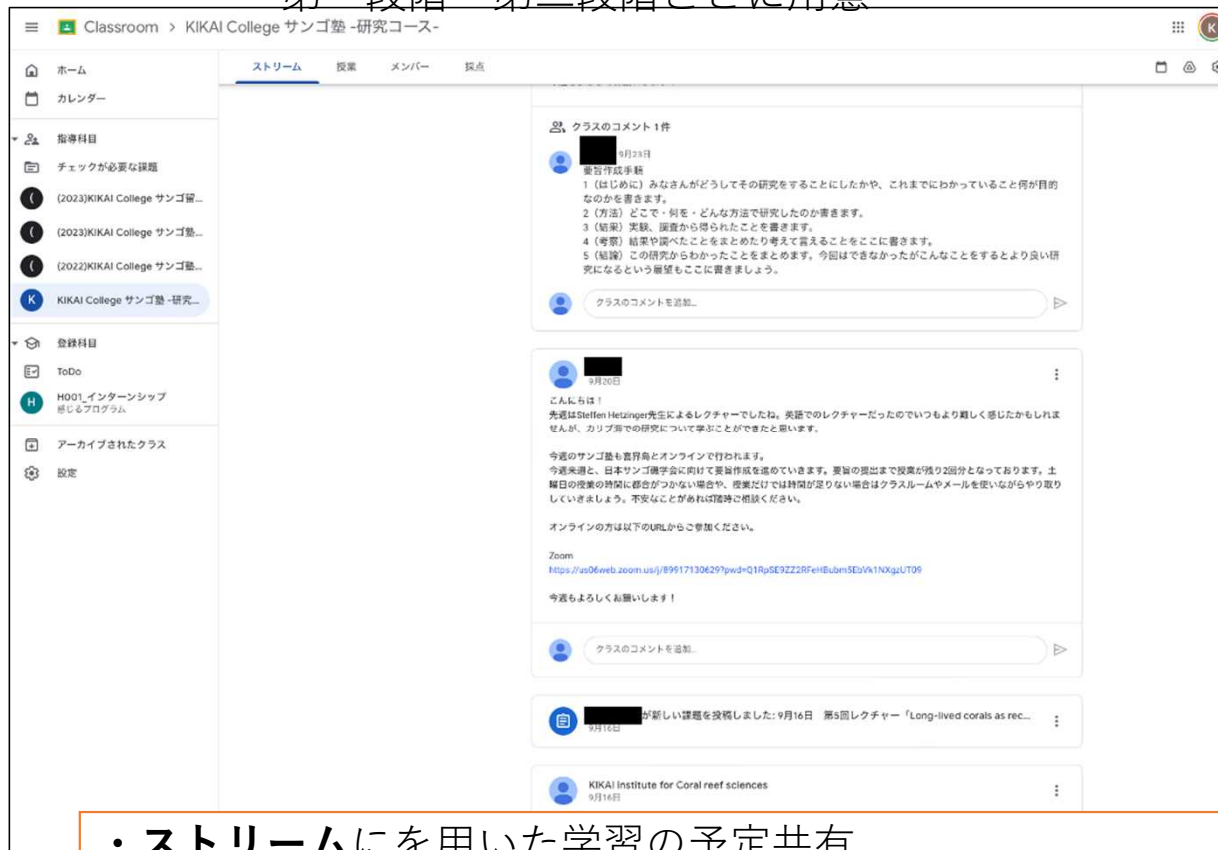
メンター・メンター補で受講生への研究倫理指導について参考とした

■第二段階の指導の工夫と評価計画の概要

➤ 指導方法・評価手法の開発

Google クラスルーム

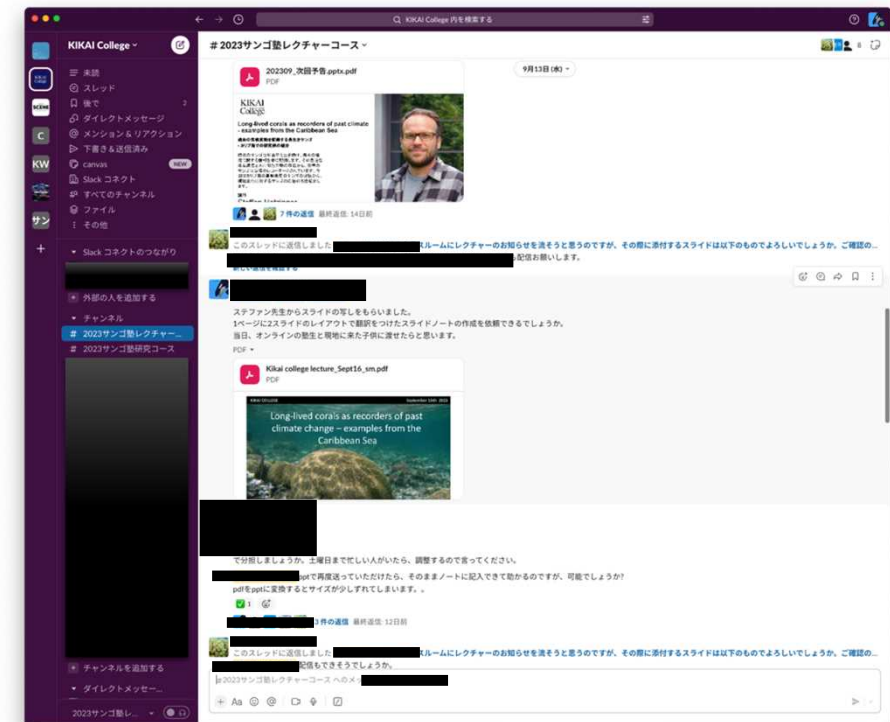
第一段階・第二段階ごとに用意



- ・ ストリームにを用いた学習の予定共有
- ・ レクチャー・授業のアーカイブの配信
(Vimeo 等動画共有サービスの限定リンク共有)
- ・ 宿題の提出と返却に利用

Slack

コミュニケーションツール
メンター・メンター補間の連絡
・ 情報共有に活用



シニアメンター、メンター補の間の
情報共有に活用

➤ 指導方法・評価手法の開発 Google Workspace (ドキュメント、スライド、スプレッドシート等)を用いた指導

コメント機能を用いて、
研究者メンター、メンター補による
研究のアドバイスと
受講生によるリバイスが
授業外の時間でも継続。

オンラインでの研究指導の効率化

■今後の重点課題

➤自立展開に向けた計画

喜界島サンゴ礁科学研究所 KIKAI College

サンゴ塾

サンゴ礁で人と自然を探求する

サンゴ塾は第一線の研究者と本物のフィールドを巡りながら、
科学的な探求方法のプロセスを身につけて、
地球環境の問題解決に取り組む実践型のスクールです

KIKAI
College
for global leaders

■今後の重点課題

➤自立展開に向けた計画

サンゴ塾 コース紹介

	対象者	開催頻度	内容	特徴
 アーカイブコース	全世代 ※選抜なし	随時 (オンデマンド 録画視聴)	レクチャー (録画)	手軽にレクチャーを受講できる
 レクチャーコース	小学校5年生～ 中学生	毎月第3土曜日 15:00～16:30	レクチャー ワークショップ フィールドワーク (任意)	レクチャーや宿題を通して研究の基礎知識を学ぶ
 研究コース	レクチャーコース 修了者	毎週土曜日 15:00～16:30	レクチャーコース ＋ 個別テーマ研究	レクチャーコースの知識を活用し研究活動を行う
 喜界島研究コース (サンゴ留学)	高校生～	毎週水曜日 16:30～18:00 毎週土曜日 10:00～17:00	研究コース ＋ 研究所での研究活動 (*在住者)	研究所施設や喜界島の自然を活用した研究活動を行う

島を起点に地球環境を広く考え
「100年後に残したい未来」を実現するための
次世代リーダーを育成

■今後の重点課題

成果

- ・ サンゴ留学（高校）
KIKAI College（大学生・社会人）
として接続、学び合いの循環
プラットフォームが構築される



取り組みから見えてきた『受講生像』

受講生

- ・ 科学への興味が非常に高い
- ・ サイエンスキャンプの参加が受講きっかけ、フィールドワークが好き
- ・ 自身で研究活動をしている児童生徒

保護者

- ・ 受講生と同様、それ以上に科学への関心が高く
- ・ フィールドワーク等、受講生と一緒に取り組むイベント、保護者向けの自然観察等での満足度が高い
- ・ 教育にかける予算が大きい過程が選択



課題

- ・ 第一段階受講生の選抜数が目標を下回る
- ・ 離島でのフィールドワークの物理障壁
- ・ コアとなるフィールドワークの他に、オンライン環境でも可能な、手を動かしての学習となる教材・指導プログラムの開発



広報戦略の見直し

ターゲットとなる保護者・受講生のいる
コミュニティへの直接的なアプローチが必要
R5年度
次年度広報候補

Benesse

プレシデントFamily

SDGs YOUTH Action

オンライン指導（ワークショップ）の手法改善

R5年度
想定 受講生が手を動かして、教材の開発と試行
サンゴ礁生物の生態を理解する指導手法の開発

二枚貝ピール法

標本のレプリカ作成

水質測定

等

■今後の重点課題

➤ 受講生の募集・選抜

受講生の募集 令和7年度の計画

月	令和7年度に向けた公募計画
1月	来年度メンターの決定 随時打ち合わせ
1月中旬	広報物の作成、上記対象者に広報開始
3月 ~5月	説明会（東京、京都、鹿児島）
5月 末	一次募集締め切り
6月 3日	審査結果発表、入塾
6月 21日	ガイダンス 兼 初回レクチャー

全国公募

ターゲット層のいるメディアに広報

(30～50代の子育て世代、可処分所得の高い、進路・進学・勉強法に興味を持つ世帯へのアプローチが効果的)
プレシデントFamily、神戸、ベネッセ未来キャンパス、関西SDGsユースアクションなど、連携団体およびそれらの持つ媒体に掲載。ターゲット層の利用するメーリングリストの活用。

地域公募

・**鹿児島県在住者の**参加費を無料とし、全対象者にチラシを配布。タブレット端末を利用した配信も検討。

リピーター

サンゴ礁サイエンスキャンプおよび過去のイベント・プログラム参加者、約1000名にメール配信。
特に優れた生徒には直接の声かけを実施。
塾生の友達紹介特典を実施。

受講生の育成計画

課題を解決する力の育成

課題を見つける力の習得

大学生・大学院生 メンター補 として指導

高校生 喜界島での『サンゴ留学』

高校生 研究プログラムの継続

新たな課題の発見

日本サンゴ礁学会での研究発表

研究実施・海外の研究者によるレクチャー

喜界島や研究室での研究実習

研究計画の立案

二次選抜・オリエンテーション

研究ワークショップ（2回）フィールドワーク

サンゴ礁科学レクチャー（6回）

サンゴ礁サイエンスキャンプ（3泊4日）

応募・一次選抜・オリエンテーション

二次
選抜外の受講生

サイエンスキャンプ参加など
研究体験活動の継続

二次育成
プログラム

一次育成プログラム

■今後の重点課題とその対策

(課題)

- ・実施体制の拡充と実施計画水準に基づいた受講生数の確保
- ・第一段階の受講生への評価フィードバックのタイミングと受講生のモチベーション維持
- ・第二段階受講生の中での進行度合いの差と、どこまで補助するか
(作業の遅れている受講生ほどメンター・メンター補によるフォローアップが必要)
- ・育成目標に対する成長達成度の数値的な視覚化とフィードバック



(今後の見通し)

- ・広報の強化による第一段階受講生の人数増加、運営体制の拡充
- ・コアとなるフィールドワークから通年の育成プログラムへの接続の改善
- ・第一段階から第二段階に進む受講生の選抜が人数が増えるに従って、通過できない受講生もでてくるので、そのフォローアップ体制も固めていく必要がある。
- ・受講生の成長の視覚化に伴う成長度の分析を強化

■受講生への評価のフィードバックを含めた個々の学びのPDCAについて

➤修了生の活躍状況の把握

(追跡の例)

受講生A (R4年度 中3) 第二段階修了

高い研究能力

科学コンテスト・学会で優秀賞等受賞

↓

高校1年生 (都道府県内有数の進学校)

現在も当団体 研究教育プログラムを継続受講

↓

大学生になったら教える側 (メンター補) になりたい!

受講生B (R5年度 中3) 第二段階修了

高い研究能力と理解力

サイエンスキャンプ・学会で優秀賞等受賞

↓

都内から喜界島の喜界高校への進学予定

『サンゴ留学』

フィールドで研究活動が続けたい!

↓

研究者の道を目指している

